

## 2020 年度事業計画

### I 山岳および登山に関する学術調査および研究（定款第 2 章第 4 条第 1 項）

#### 1. ヒマラヤ、カラコラム、チベット、崑崙地域等における登山ならびに学術探検の文献の収集ならびに研究

- (1) ヒマラヤ等上記の地域の登山ならびに地質学、気象学、氷河学、動物学、植物学、人類学、医学などの学術探検に関する文献資料を収集し、それぞれの分野に関して研究を行う。
- (2) 過去数十年にわたる本会の海外遠征および学術調査によって蓄積された学術資料ならびに国内外から収集した学術資料を京都大学総合博物館ならびに京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に 2000 年に寄贈した。引き続きその資料充実と収集資料の整理に協力する。
- (3) 本会会員が主催または参加した海外遠征の写真、映像資料等を集める AACKアーカイブス事業を担う委員会を設けて、資料の整理を進める。
- (4) 雲南・チベット地域の総合的研究を目的に 2004 年に設立された雲南懇話会の運営に協力する。
- (5) 「ヒマラヤという第 3 の極地」を対象にしたユニークな教育研究組織として 2016 年に設立された京都大学ヒマラヤ研究ユニットの運営に協力する。
- (6) 第 40 回日本登山医学会学術集会の運営に本会会員が協力する。

#### 2. 高所登山に関する調査研究

本会が主催した海外遠征によって得た資料を基に、引き続き、(1) 高所医学、(2) 高所気象学、氷河学、(3) 高所用装備、(4) 高所用食糧、(5) 高所山岳遭難の防止など、高所登山に関する調査研究を行う。

### II 一般社会に対する健全な登山の指導奨励ならびにこれに必要な研究会、講習会および展覧会等の開催（同第 2 項）

#### 1. 登山講習会の開催と講師の派遣

健全な登山を奨励するため下記により登山講習会を行う。

- (1) 登山講習会（京都大学山岳部と共催）  
2020 年度に、新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテにて、一般登山者に対して、本会会員を指導者として登山技術、遭難防止、自然愛護を目的とした講習会を開催する。
- (2) 他団体主催講習会への講師の派遣  
独立行政法人日本スポーツ振興センターが主催する登山技術講習会、公益社団法人日本山岳会が主催する海外登山研究会ならびに UIAA（国際山岳連合）の高所医学研究会に会員を講師として派遣する。

#### 2. 研究会および展覧会等の開催

- (1) 梅棹忠夫生誕百年記念事業（代表：幸島司郎）の開催に協力する。
- (2) 2021 年に本会は創立 90 周年を迎える。それを記念し、京都大学の登山、探検やフィールドワークの歴史を振り返り、未来を考える催しを企画開催する。

### III 国内・国外における登山および探検に対する企画および協力（同第 3 項）

#### 1. 国内山岳会の海外登山隊への資料提供と協力

国内の山岳会が主催する海外登山隊および学術調査隊に資料を提供し、十分な協力を行う。

#### 2. 中国、ブータン、インド、ネパール、パキスタン、アフガニスタン国内の登山および学術調査

各国の登山協会，山岳会，関係諸団体と連絡をとり，調査を行う。

3. 遠征基金の運用および管理

1975 年度に本会に設立された京都大学学士山岳会遠征基金を遠征基金運用規程に基づき運用・管理する。

4. 海外登山・探検助成制度の運用

2005 年度に設立した海外登山・探検助成制度を運用し，本会会員が主催する海外登山・探検に対して助成金を交付する。

IV 山岳登山に関する図書・機関誌などの発行（同第 4 項）

1. 事業報告ならびに事業計画

A4 判の冊子を作成し，本会の事業報告ならびに事業計画，新入会員などの紹介を掲載する。毎年 1 回発行し，配布先は本会会員である。

2. AACK 時報

『AACK 時報』の編集を行う。

3. ヒマラヤ学誌

京都大学ヒマラヤ研究会，京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院ならびに京都大学ヒマラヤ研究ユニットが発行する『ヒマラヤ学誌』の編集・発行に協力し，同誌を本会会員に配布する。

4. AACK Newsletter

『AACK Newsletter』を年 4 回編集・発行し，全会員に配布して会員相互の情報交換を図る。

5. ウェブサイトの運営

本会の公式ウェブサイト（[www.aack.info](http://www.aack.info)）を運営し，本会の歴史と活動，会員の動向や山行計画と報告などについて広く社会に情報公開し，会員および会員外の情報交換の場とする。

また，本会の公式ウェブサイト内で立ち上げた「AACK の活動アーカイブス」のさらなる充実に努める。

V 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡ならびに情報の交換（同第 5 項）

中国，ブータン，インド，ネパール，パキスタン，アフガニスタン等の関係機関との交流を深め，また，欧米の山岳会との情報交換に努めて，これら各国登山関係者との親善に貢献する。